令和２年度地域課題解決プログラム

後継者不足の伝統技術を障がい者の手で次世代につなぐ
～さんさ裂き織 PR プロジェクト～

人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）／ 教育学部中学校教育コース（美術）
ヴィジュアルデザイン研究室学生チーム
（発表者：月舘花菜、前川桃子、三浦未佳）

指導教員：教授　本村健太（人社・芸文）

序

研究課題における「裂き織（さきおり）」とは、余り布や古布を細く裂いて織る伝統的な技法であり、「ものを愛おしむ気持ち」から布のリサイクルを行うものである。株式会社幸呼来 Japan（さっこらじゃぱん）による「さんさ裂き織」は、色鮮やかな「盛岡さんさ踊りの浴衣」をもとに作るもので、「地域おこし」としての製品化にもつながっている。さらに、製作においては「障がい者就労支援」を行い、裂き織で「障がい者雇用の場」を広げ、「地域の伝統技術」を未来につなげるという活動を展開している。Web サイトにおいては「いかす・つくる・つなぐ。裂き織から生まれる色とりどりの可能性」（図 1）と記されている。

このように伝統工芸「裂き織」の技術継承を障がい者とともに行っていることは地域においてもっと評価されるべきであり、新たなビジネス展開やデザインの可能性について、岩手大学の学生たちの若い視点で見直す、また提案するという具体的な機会を得ることは両者にとって大きな意義がある。したがって、本研究課題の目的は、「さんさ裂き織」のアピールポイントを洗い出し、PR につなげること、そしてデザイン的な考察を行い、新たな可能性の展開に寄与することである。

図 1：いかす・つくる・つなぐ。（https://saccora-japan.com より）

岩手大学人文社会科学部/教育学部のヴィジュアルデザイン研究室学生チーム、そして卒業研究として三上瑠奈が実施した「さんさ裂き織 PR プロジェクト」についての取り組みを以下に報告したい。

令和２年度地域課題解決プログラム

I．本研究課題について

（実施計画・方法）

本研究に取り組む学生グループを形成し、課題申請者（幸呼来 Japan）との協議を行ったうえで、参加する学生たちの力量で可能な課題解決の方法を検討する。まずは学生たちが伝統工芸「裂き織」および障がい者就労支援について正しく理解することから始め、そこに見いだされた価値を PR 活動に展開しつつ、これまでの裂き織のデザインについて考察し、最終的には新たなデザインの可能性やビジネス展開について提案する。

1. アピールポイントを洗い出し、PR 活動につなげる。
2. 既存デザインについての考察（分類など）を行う。
3. 新たなデザイン（ビジネス）の提案を行う。

〇方法

本研究課題の実施内容については大きく次のように行うことを計画した。

1. コロナ禍において現地取材が難しいため、まずは Web サイトを閲覧して商品に関する感想や提案をまとめる。
2. 関連 Web サイトや商品ページへの呼び込みのための「バナー案」を試みる。
3. さんさ裂き織の体験として入門用の「DANBOLOOM」（ダンボルーム）を試みる。
4. PR 活動を卒業研究としての研究課題につなげて実施する。

このように、学生たちの若い世代の視点を生かして課題に取り組む計画をしたが、コロナ禍において活動が制限されることも理解し、感染防止を最優先しながら実施することとした。

II．今年度における研究活動の経過について

（結果・考察）

〇「さんさ裂き織」についての感想や提案

さんさ裂き織について、ヴィジュアルデザイン研究室の学生だけでなく、前期の「造形実習（視覚文化）A」（担当：本村健太）の履修者の一部にも予備知識がない状態で関連 Web サイトを閲覧してもらい、任意で商品についての率直な感想や提案を書いてもらった。

幸呼来 Japan：
http://saccora-japan.com/
SACCORA オンラインショップ：
https://www.saccora-store.online/
ダンボール織り機「DANBOLOOM」：
https://www.danboloom.com

学生たちにおいて、良いと思われた商品（およびその理由）は次のようなものであった。

・巾着小物入れやポーチ：種類や色が豊富で男女どちらが持っていても素敵な商品だ／子供から大人まで使うことができ、子供がハンドメイドのものに興味を持つきっかけになる
・切り替えデニムのフラットポーチ：異素材を使った商品がとても良い
・名刺入れ：「春色の」、「タンポポのような」という言葉がついていて、その季節に買いたくな

るような配色で素敵だ
・カメラストラップ：幅が太くて丈夫そうで、素材的にも肩に負担がかからなくて使いやすそうな印象、デニムやカラフルな色が際立っていて素敵
・コースターやコーヒーマット：コットン 100％で肌触りがいいという特徴を活かして、日常で触れる機会の多いものを作る点が良い／裂き織の厚みのある生地がコップの水をよく吸ってくれそう／熱い飲み物が入った容器を上に置いてもテーブルに傷がつかなそう
・バッグ：丈夫で破れにくい裂き織の生地がバッグに適している／耐久力があり長く使えるうえ、洗濯できるのもよい／どのような格好にも合わせやすい白一色のデザインが良い
・ペンケース：破れにくく大容量な作りがよい／チェック模様もかわいらしい
・がま口小物入れや三角ポーチ：フォルムが可愛く、何個あっても便利／様々なサイズ展開もできる／がま口とさんさ裂織の組み合わせが良い。

また、新たな商品化の提案としては、次のようなものがあった。
・ネクタイや、アクセサリー（イヤリングなど）：お客さんが手に取りやすい／様々なバリエーションが考えられる／誕生日プレゼントや、お世話になっている人への感謝の気持ちとして贈りやすい
・売れ残りの服と浴衣との掛け合わせ：浴衣だけでなくデニムのような異素材も組み合わせる
・ぬいぐるみなど：インテリアとして使えるものもあったらよい
・スカートやジャケット：裂き織特有の縞模様を取り入れる
・のれん：夏は家の扉や窓を開けておくことも多いので、寒色系委の色を組み合わせる
・ブックカバーやスニーカーの紐：日常で使えて楽しい
・パッチワークなど：見た目の温かさを活かした鑑賞できるような作品ももっとあれば良い
・スマホカバー：スマホを固定する部分と裂き織の部分を取り外し可能にし、汚れてきたら外して洗濯できるようにする
・鍋敷き：大きいコースターのようなもの／裂き織の生地を重ね、熱い鍋を敷いてもテーブルが焦げないようにする
・靴ひも：単色のものに加え、ワンポイントのおしゃれとして奇抜な色の組み合わせや派手めのデザインがあってもいい
・ご祝儀袋：見慣れないものを見てうれしいと感じる／お祝いごとのため、少々値段が張っても消費者は買い求める
・商品案スケッチ（筆箱、カバー・ケース、アクセサリー）の提出（図 2）

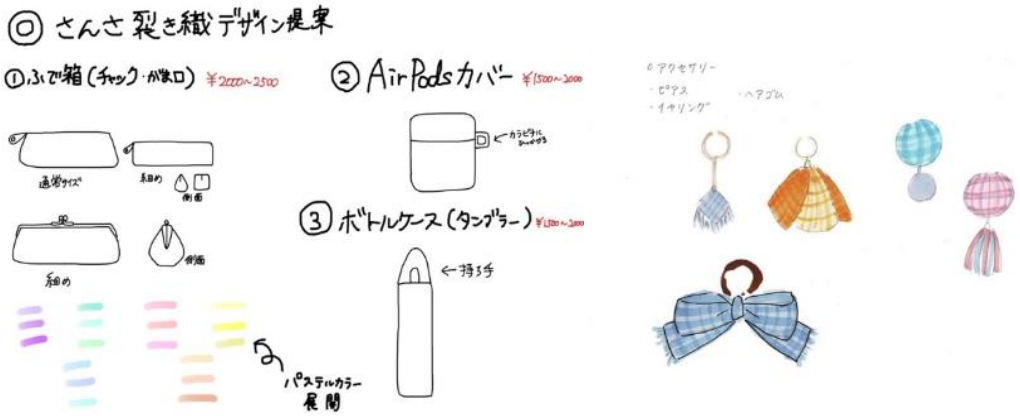


図 2：商品案スケッチ（左：谷藤瑠花、右：工藤夢未）

これらの学生たちによる感想や提案（初期の段階）に対して、幸呼来 Japan の石頭悦さんからは、「素敵」・「かわいい」という感想は多くの人から得られるが、その次の購入となるまでが本当に大変であるという旨の回答があった。そこには働く障がい者の方々の収入までも考えなくてはならない難しさがあると思われた。製品としては質の高いものができあがっているが、それを安く売ってしまうことはできないのが現状であり、大きな課題である。

以前の学生の提案の中には、「学生も買う可能性が高いものについては、1000 円以下のものが手を出しやすい」、さらには「裂き織の人件費が抑えられれば、価格も抑えられる」という声もあったが、障がい者の方々の手作業によって生み出されるさんさ裂き織は、そのような薄利多売にはなじまない事情があることを考慮しなければならない。「伝統工芸品など一点ものは職人の高い技術や、時間がどうしてもかかる。商品を作る全てに人件費がかかり、商品に費用が加算される。そのため、価格が高値になってしまうことは仕方ない」（千田愛梨）のである。

〇幸呼来 Japan「さんさ裂き織」の見学および検討会議

・令和 2 年 6 月 25 日（木）幸呼来 Japan（盛岡市安倍館町）にて

学生グループ３名（三上瑠奈 4 年、工藤夢未 3 年、千田愛梨 2 年、引率：本村健太）は、岩手県において一時コロナが収まっていた時期に、代表取締役の石頭悦（いしがしら えつ）さんと相談し、幸呼来 Japan において見学および研究課題の検討を行った。（図 3）

図 3：DANBOLOOM の作例、幸呼来 Japan での検討会議の様子

幸呼来 Japan においては、回収された布を細く裂いて紐状にしていく作業を実演してもらったり、仕事中の現場に案内してもらったりなど、障がい者の方々が制作技術を磨いて熱心に取り組んでいる姿を拝見した。

[参加学生の感想]

私は今回初めて裂き織が出来る工程を見ました。

経糸が 600 本入っているということに驚きました。私は染織の授業では経糸が最大 48 本のみしか、制作したことがないのですが結構時間がかかるのでさんさ裂き織はとても時間がかかっていると感じました。私が幸呼来 Japan のサイトを見たときよりもたくさんのデザイン性の高い商品や様々なアパレルブランドとコラボ商品を作る活動をしていることが分かりました。

また、従来の南部裂き織は黒や紫、茶色のダークトーンで、地元の温泉やおばあちゃんがもっているものを目にしたことがあるので裂き織のターゲットは年齢層が高いものだと考えていたので

すが、さんさ裂き織はカラフルでかわいらしいデザインのほかアパレルブランドとコラボし、豊富な品ぞろえであるため、若者にとても受けると思いました。学校に帰った後に、書道科の先輩にパンフレットを見せると、靴がかわいい、デザインが良いとおっしゃっていました。これだけ素晴らしいさんさ裂き織のため、やはり発信次第でもっと知ってもらえると感じました。

私もさんさ裂き織のことは知らなかったのですが、画面上でもデザインに惹かれ、実物を見ると温かみを感じるものがあったので、本当に素晴らしかったです。（千田愛梨）

—

職人の方々が一つ一つ手作業で行っているのを見て感動しました。染織の授業を取っているのですが、それとはまた違ったさらに細かい職人の技が詰まっていると感じました。

幸呼来 Japan さんは多くのアパレルメーカーと組んで素敵な商品を開発していることを知りました。様々な方々、ブランドの方々の要望に応えられる技術を持っているのが強みであると感じます。

より多くの方々に知ってもらうためには新商品というよりかは宣伝の方法に重点を置くことが必要なのではないかと感じます。Instagram や Twitter などの SNS を利用し広めていくことも一つではないかと思います。また、パフォーマンス化するというのも伝統工芸を広めるという観点から見るといいのではないかと考えました。

段ボール織り機で身近な人々に是非作っていただいて魅力が伝わればと思います。私も見学で紹介していただいた段ボール織り機で作品を作ってみたいです。（工藤夢未）

〇DANBOLOOM での裂き織制作体験

裂き織とはどういうものかを理解し、その魅力を伝えるものとして幸呼来 Japan が製造・販売している「DANBOLOOM」（ダンボルーム）を希望学生で使ってみることにした。このスターターキットは、公式の Web ストアにおいて二千円程度で誰でも購入でき、希望によって様々な経糸（たていと）や緯糸（よこいと）も追加で購入できる。もちろん、古着などを裂いて素材を自分で用意することもできる。手作業で手間のかかるものながら、自ら織ることの楽しさを味わうとともに、さんさ裂き織の魅力を感じるものとなるのではないかというのがねらいである。

[制作体験の成果と感想]

DANBOLOOM を体験して、一つのものを作りあげることは難しいと改めて思いました。最初のほうは形がいびつでしたが、そこも自分で作ったものなので愛着がわきました。（図４右）写真の作品は冬をイメージしており、ふわふわの雪と氷、冬独特の暗さを表現しました。この DANBOLOOM があれば自分の好きな糸・布で、様々なイメージで作品を作ることができるのでとても面白いと思いました。慣れてきたら、経糸をそれぞれ違う糸で織ってみたり、緯糸の工夫をしてみたりといろいろな創作方法が考えられ創作の幅が広がっていくと考えます。その際の違う織り方、糸の工夫などのアドバイスがあったら作る側の興味関心も深くなっていくのではないかと考えました。

ホームページなどで作った作品を募集して作品展や、コンテストのようなものがあると DANBOLOOM を買う人が増えたり、裂き織りやさっこら Japan の商品に興味を持ってくれたりする人が増えるのではないかと考えました。SNS でハッシュタグを指定してそこで募集してみるのも面白いと思います。（工藤夢未）

図 4：DANBOLOOM での裂き織制作体験（工藤夢未）

—

（図 5 左は）初めに説明書をみて付属の糸を使って織ったものである。

この DANBOLOOM は、糸が無くなっても糸を買って作ることで、新しい作品を作ることができ、爪を反対にして使うことで、経糸の間隔を広げることができる。これは制作の可能性の幅が広がる便利なものであった。見学の時には、経糸をあまり強く張っていないイメージであったため、DANBOLOOM も織機と同じような難しさも備えており、職人のすばらしさを感じた。DANBOLOOM は何度も手軽に作品制作することができるため、趣味の一環として取り組めたり、作ったものを人にあげたりすることで、さんさ裂き織の商品にも興味を持つ人が増えると考える。

私は、糸が残ったため、100 円ショップで購入した糸と合わせてタペストリーを作った。（図 5 右）フリンジや折り方や付属の糸がなじむ色合いになるように心がけた。タペストリーはすぐに作ることができる可愛らしいインテリアなので、飽きたら新しいものをまた 100 円ショップの糸や小さくなった服や、好みが変わってしまっていらなくなった服を裂いて、作品を作ってみたい。（千田愛梨）

図 5：DANBOLOOM での裂き織制作体験（千田愛梨）

―

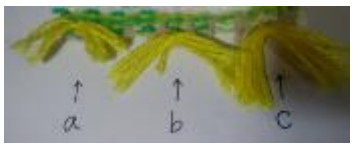
前期に DANBOLOOM でタペストリーを制作した際に、織り方やデザイン、色の組み合わせ等に課題が残った。それら課題点を改善することを目指して、再度工夫してデザインを検討した。図 6 左は前期、図 6 右は後期に作ったものである。

例えば、前期作品の①の部分の織り方について、課題点を改善して作ったものが、後期作品の①´と表されている。

図 6：DANBOLOOM での裂き織制作体験（鈴木七花）

DANBOLOOM デザインの検討と考察（鈴木七花）

【前期のタペストリー】 ○良い点　　▲課題点	【後期のタペストリー】 ☆工夫した点　　■考察
①　毛糸を使用した一般的な織り方で織ったもの ○織り目が揃っている。 整った印象。正統派。 ▲遊び心に欠ける印象。 普通過ぎる。	①´ ☆普通の織り方だからこそ装飾が映えると考え、ボタンを付けた。 ☆白い毛糸の背景にパステルカラーのボタンの組み合わせにして、統一感を出した。 ■ボタンのデザインがよく目立っていていた。 ■可愛らしい印象になり、毛糸とボタンの色の組み合わせに成功したと考える。 ■今回は毛糸の色と同じ色の木綿糸でボタンを縫い付けた。ボタンを縫い付ける糸の色を工夫することで、更にデザインの幅が広がると考える。
④タッセルのような装飾を付けたもの ○花やリボンに見立てられる。	④´ ☆結び目が大きくならないように、取り付け方

▲結び目が大きくて悪目立ちする。 ▲作品の中ほどの位置にあると違和感がある。 ←A ←B ←C 写真１  写真２	を工夫した。 結び目について、前期は、写真１のＡを直接結んで取り付けていた。しかし、今回はＡの中央をＢで縛って、Ｃの様にしてから取りけるように改善した。 ☆毛糸の色を工夫して、たんぽぽをイメージして作った。 ☆位置に違和感がないように、タペストリーの一番下の部分に付けた。 ■結び目が目立たない取り付け方が出来た。 ■タッセルのように下に垂れ下がらなかった。毛糸の長さと量が多くないと、左右に浮いてしまうことが分かった。 ■たんぽぽらしくするためには、毛糸の量を増やしてもっと短く切り揃えると良いと考えられる。 ■写真２のａは、毛糸を手に３回巻き付けた長さの毛糸でつくったもので、ｂは同様に４回、ｃは５回巻き付けた長さの毛糸つくった。 巻き数が少ない→リボンらしい。可愛い印象。 巻き数が多い→よりタッセルに近くなる。派手な印象。
⑤毛糸と裂き織をねじって一本の紐にして織ったもの ▲他の織り方と比べて、整った印象は感じられない。 ▲同系色の方が良いかもしれない。	⑤´ ☆同じような色にするため、紺色の裂き織と青色の毛糸を使用した。 ☆紺色の裂き布には、教育学部の家庭科の授業で手作りティッシュペーパーカバーを作った際に発生した端切れを使用した。 ■今回は色が似すぎていたため、同系色の組み合わせとしては検討出来なかった。 ■非常に似た色の組み合わせだったことで、遠くからは分からないが、近くでみると素材に変化があるという面白味を感じることが出来る。 ■縦糸が見えるデザインになった。そのため、縦糸の色や太さもデザインの一部として工夫できると考えた。
⑥市松模様のように織ったもの	⑥´

▲一本に複数の色がまざっている毛糸で作ったために、市松模様が分かりにくかった。 写真３	☆前回の反省を活かして、単色の毛糸を使用した。 ☆統一感を出すために、同系色を使用した。 ☆付属品の杼では大きすぎるため、裁縫道具のゴム通しを使用して織った。（写真３） ■単色で織ったことによって、市松模様が分かりやすくなった。 ■色の組み合わせによって、いろいろな印象のデザインが出来ると考える。 ■市松模様以外の、より複雑な模様を織ることはできるのか試して、新しいデザインを検討していきたい。
⑦毛糸で花に見立てたモチーフを付けたもの ▲毛糸が太くて形が整っていなかた。 ▲あまり花に見えなかった。 写真４	⑦´ ☆春のイメージで、黄色い毛糸でシンプルな背景を織り、白い毛糸で花をつけた。 ☆花の部分は繊細な作業になるため、他の毛糸に比べて細い毛糸を使用した。 ☆花の部分の形や毛糸の量を工夫した。（写真：４） ■花の部分の毛糸を細くしたことで、形が整えやすくなったり、取り付けやすくなったりした。 ■前回は花の部分に注目していた。しかし、今回はは背景となる部分との色の組み合わせも、重要であると分かった。 ■写真４は今回作ったもので、手に５回巻き付けた長さの毛糸で作った花(左)、手に５回巻き付けた長さの毛糸で、輪を切って作った花(中央)、中央のものの巻き数を倍にした花(右)である。 輪を切らない花→丸くてふわふわした印象。 巻き数が少ない→小さい花。可愛らしい印象。 巻き数が５回→丁度良い大きさの花になった。 巻き数が多い→立体感がある。派手な印象。
⑨ジーンズの端切れを使って織ったもの 〇もったいないを活用できる。 〇隙間が出来るため、風通しを意識した商品には良い。 ▲生地の表と裏の色が異なるため、織っ	⑨´ ☆前回同様、自分のジーンズを裾上げした時に出た端切れを使用した。（写真５） ☆目を詰めて織ることが出来るように、生地の幅を工夫した。

ている時に生地がひっくり返るとその部分が目立つ。 ▲生地が硬いため、目をきっちり詰めて織ることが困難である。 写真５	→前回は幅１cm のひも状にして使用したが、今回は幅５mm程度のひも状に加工してから使用した。 ■織っていると、どうしても生地がひっくり返り、表と裏が混在してしまう。 ■幅を狭くして、細いひも状にしたことによって、目を詰めて織ることができた。 ■ほつれた糸がたくさん出てきてしまうことで綺麗な印象にはならなかった。ポジティブな言葉で表すとしたら、「ワイルド」な感じがあてはまると考えた。

前回の取り組みをもとにして、どのような工夫や改善ができるかを考えながら制作をすることができた。また、DANBOLOOM によってさんさ裂き織のデザイン検討を始めてから、自分の思考の中にある、「もったいない」「まだ使える」という考えが大きくなったと感じた。特に印象に残っているのは、別の裁縫の授業で出た端切れを取っておこうと自然に感じたことである。以前の自分であったら、今後使うことは考えずに捨てていたと考えられる。とっておいたことで、裂き織に使うことができた。（今回は、タペストリーの⑤´の部分に使用した。）

もっとこうした方が良くなるのではないかと考えて実際に作ってみることで、自分の考えた改善案が成功したときの嬉しさを感じることができた。例えば、市松模様を作る時に単色にすることで分かりやすくなったり、花のモチーフを作る時に細い毛糸を使用したことで花らしくなったりしたのが嬉しかった。

しかし、織ってみると思ったようにはいかず、新しく課題が生まれてくることも多いのだと改めて実感した。例えば、タッセルの結び目を目立たないようにすることには成功しても、タッセルらしく下に垂れ下がらせることができなかったり、ジーンズの生地の端切れで織った部分は、端切れの幅等を工夫しても整った印象を得られなかったりしたことなどが挙げられる。

このような体験を通して、次にさんさ裂き織のプロジェクトに参加する際には、今回の制作で課題となった点について更に工夫を考えて、どのようなデザインが良いか検討を続けていきたいと考えた。（鈴木七花）

—

（図 7 上段左から順に）まずは DANBOLOOM についていた付属の布などを使用して制作した。隙間を無くそうと編んでいた結果、必要以上にきつく編まれたものができあがった。次に家にあった着られなくなったカーディガンやトップスを裂いて制作した。前回の反省を活かして横糸を整える時はあまりきつくしすぎないことを意識した。毛糸のような細い糸を横糸にする場合はきつく編みすぎると形が崩れてしまうが、裂いた布を編むときは太さがあるので布の形が細くなるように多少はきつく結んだ方が見栄えが良いということがわかった。続いて、100 均にて購入した毛糸を使用してタペストリーを制作した。途中から編むのが楽しくなってしまい縦長なタペストリーになってしまったが概ね綺麗に編むことができた。糸が 1 種類だと整った印象ではあるが単調な感じがした。

（図 7 下段左から順に）次に 100 均で購入した毛糸や自宅にあった布などを複数使用して制作

した。毛糸やカーディガンの切れ端などがあったため、暖かい印象や冬らしい印象をテーマにグレー系統と黄色系統の配色でまとめた。だんだんときつく編んでしまっていたため横幅が揃わなかったが、デザインとしては今までで一番納得のいくものができた。前回の反省を活かし、続いては形を意識したものを制作した。デザインについてはあまり変えず、配色を黄色からピンクに変えレースを足して女性らしさをポイントとしたものにした。ピンクの毛糸の色味が濃かったため、配色が女性向けというより女児向けのものになったが、形は綺麗に編むことができた。また上下のフリンジをほぐすことでボリューム感が増した。最後に実用性のあるものをつくりたいと考え、コースターを制作した。なるべくシンプルで使いやすいデザインにしたかったため、1 種類の毛糸のみを使用した。最初に比べてだいぶ整ったものを編むことができた。（月舘花菜）

図 7：DANBOLOOM での裂き織制作体験（月舘花菜）

〇バナーの構想・提案

ネット上で特定のウェブサイトをリンク付きで紹介したり、個々の商品のページに誘導したりする役割をもつ画像を「バナー（Banner）」と呼ぶが、これを制作することはヴィジュアルデザインの基礎トレーニングにもなるので、希望する学生には幸呼来 Japan や DANBOLOOM、各種の商品に導くバナー案を構想してもらうことにした。（しかしながら、バナーの完成、そしてバナー広告による SNS 上での検証までは到達できなかった。）

[提案されたバナー案の事例]

バナーの目的と内容：

・商品の外観、手作りだからこそのあたたかみを伝えたい

・主に 30～50 代の女性にターゲットを絞る

・商品の認知、購入を目的とする

以上を踏まえて：

・バナーに入れる要素として、「商品の写真」、「手（可能な限りものづくりの手、飾り気のない手が望ましい）」、「キャッチコピー」を採用する

・ターゲットの年齢層や、ネットショッピング等で気軽に利用する端末を考慮したうえで、スマホに沿った大きさのものを制作する

バナーの配色：

－ 幸呼来 Japan の公式ホームページ、公式動画を受けて

1. 全体的にオフホワイトを基調としている。文字は背景が白の場合は黒、写真等の色付きの場合は白

2. できる限り使う色を抑えることにより、商品の鮮やかさを際立たせるとともに、統一感を演出している

－ 色の心理的効果を考慮して

1. 清潔感を出したい → 白

2. ターゲットの購買意欲を高めたり、関心を集めたりしたい → 赤

3. 素朴さ、穏やかさを出したい → 緑

以上を踏まえて：

・清潔感があり、かつ公式サイトとの統一感を持たせることができるオフホワイトを背景とする。

・写真の商品は、購買意欲を刺激し、目を引きやすい赤、もしくは素朴さや穏やかさを感じさせる緑にする。

キャッチコピー：

・親近感を感じるもの、温かみが感じられるものがよい

・「手作り」という商品の特性、特別感

・ターゲットは 30～50 代女性

・シンプルでインパクトのあるものがよい

以上を踏まえて:

「あなたのために。」（図 8）で決定した。（中嶋香朱美）

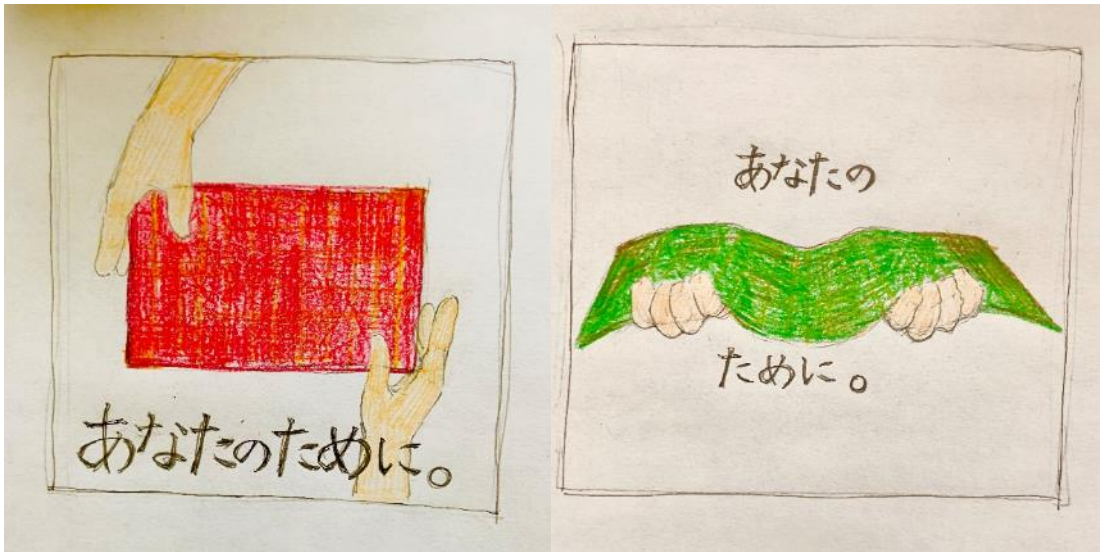


図 8：バナーのラフ制作（中嶋香朱美）

他の学生によるバナー案には、以下の図 9、図 10、図 11、図 12、図 13、図 14 のようなものがあった。

実際にバナーを仕上げて SNS 上で広告として掲載することはできなかったが、この原案において幸呼来 Japan やさんさ裂き織についての PR ポイントを考察し、その価値を明確にすることができたと思われる。

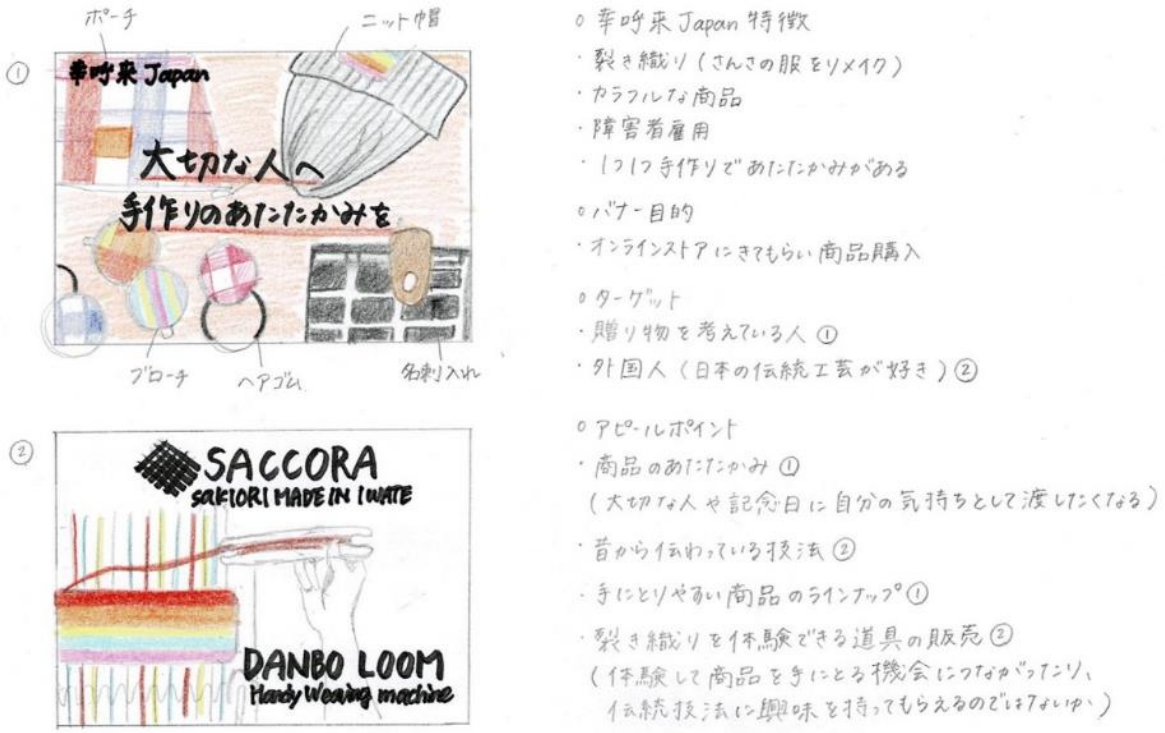


図 9：バナーのラフ制作（工藤夢未）

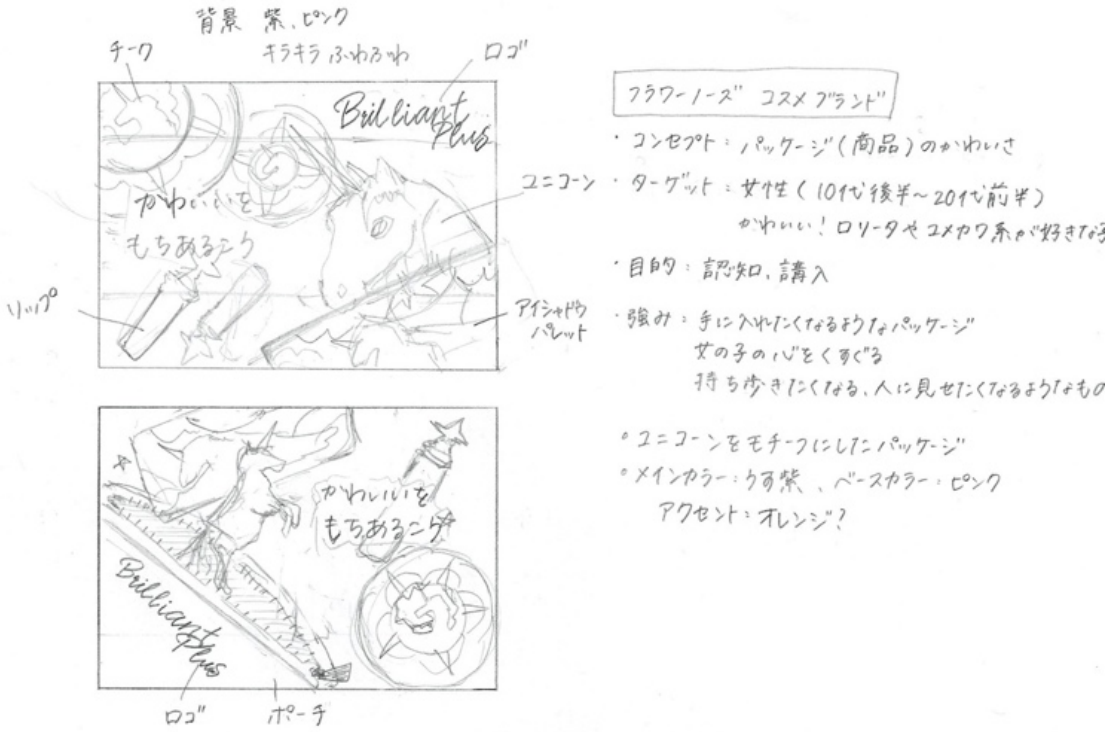


図 10：バナーのラフ制作（工藤夢未）

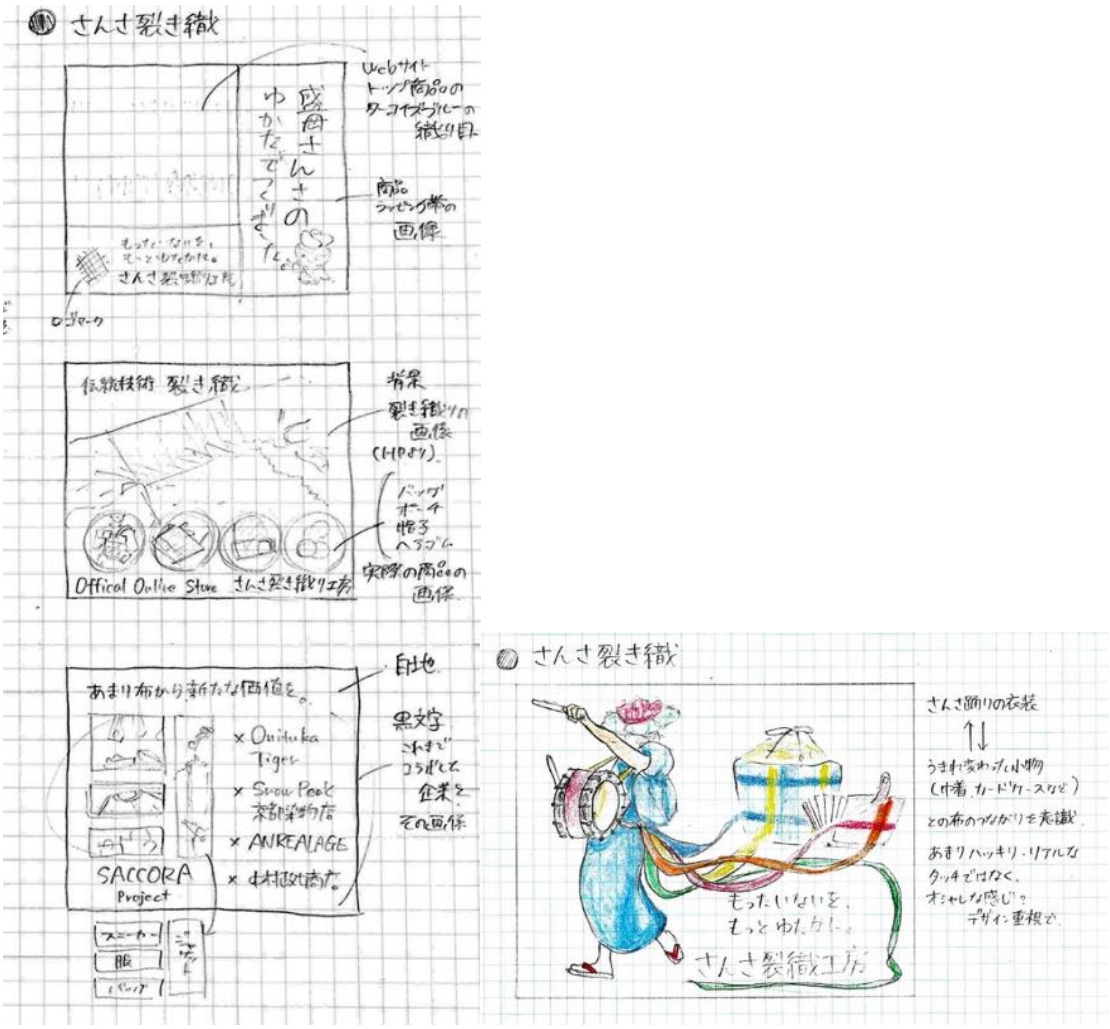


図 11：バナーのラフ制作（石岡京歩）

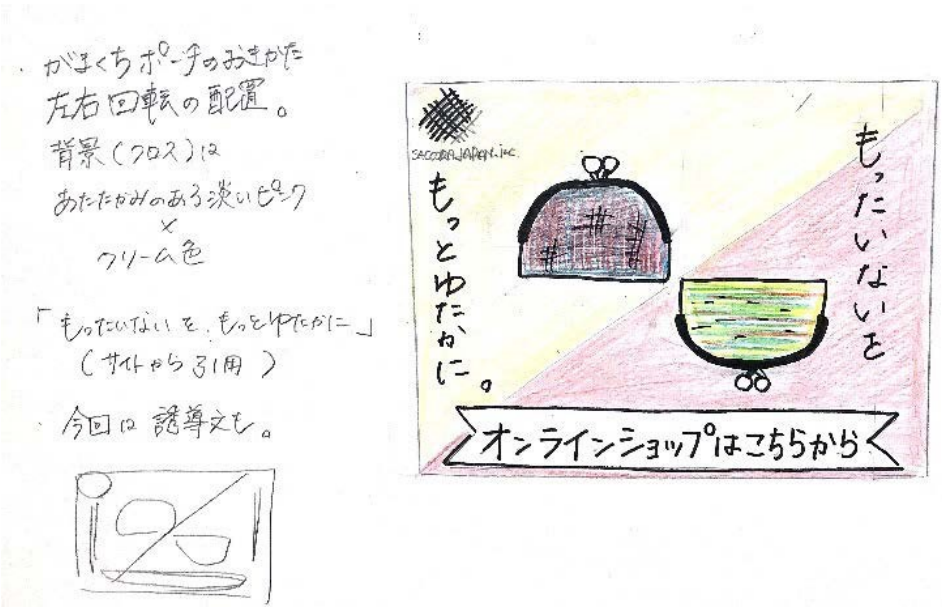


図 12：バナーのラフ制作（岩渕菜摘）

デジタルの画像で作り込んでみたバナー案は、図 13、図 14 の通りである。

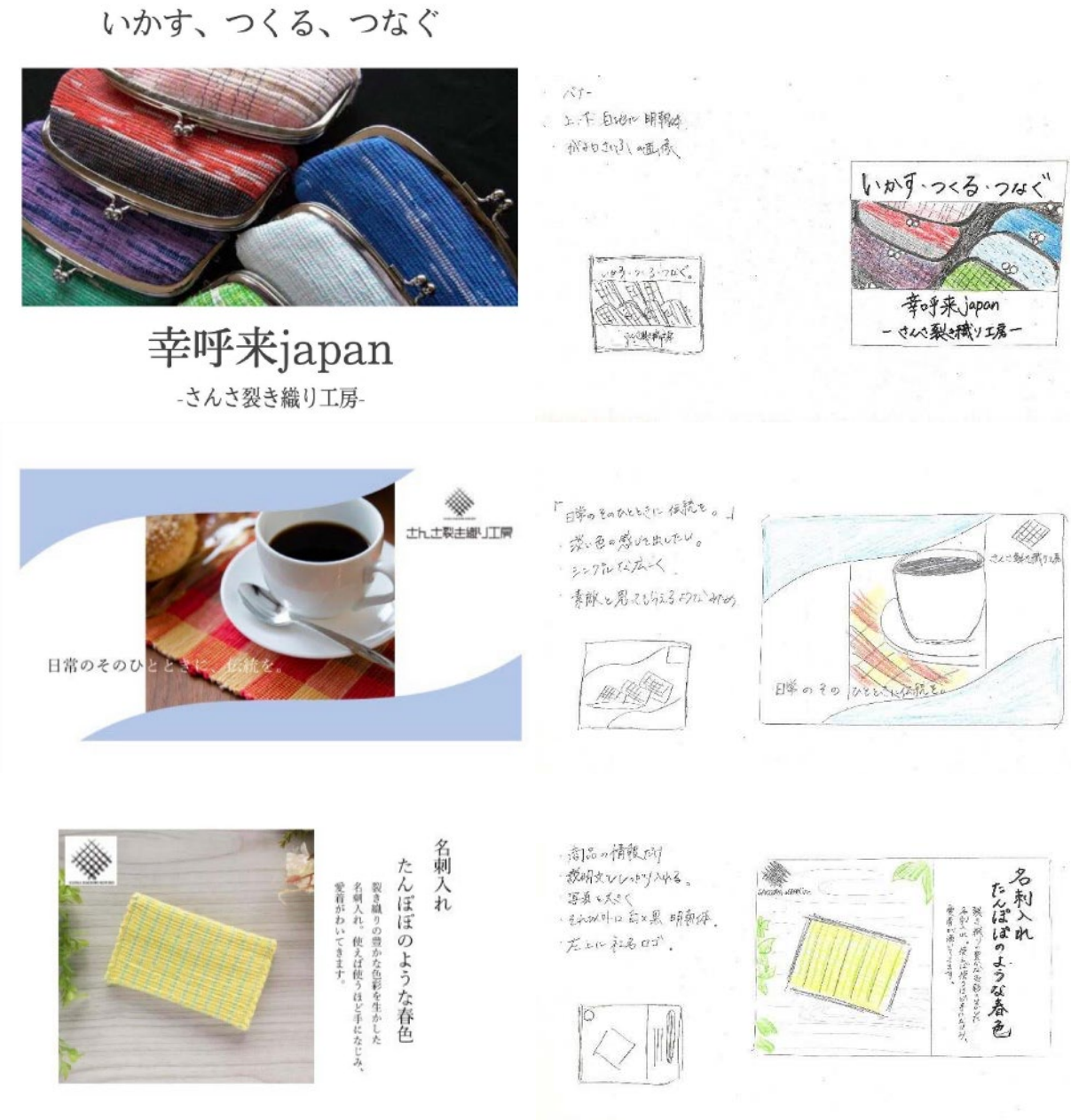


図 13：バナー制作の試み（岩渕菜摘）

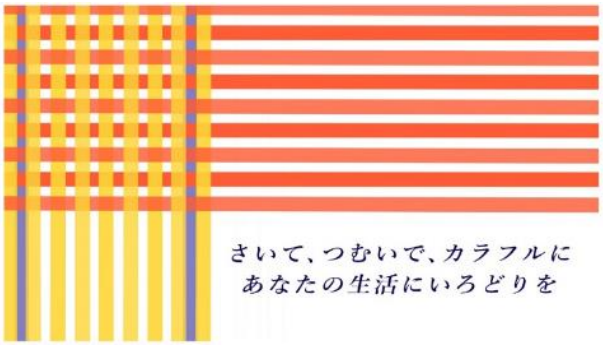


図 14：バナー制作の試み（齊藤竜馬）

〇卒業研究への継承

さんさ裂き織に興味を持った学生たちが岩手大学において対面授業も難しかった前期において行った提案などを引き継ぎ、後期からはヴィジュアルデザイン研究室４年の三上瑠奈が卒業研究（人文社会科学部の「特別研究」）として取りまとめて実施することになった。

[卒業研究に向けて]

なぜ購入に至らないかを考えたとき、それは主に価格設定の面の問題であると感じました。しかし先日の見学で分かったように、裂き織の作品にはたくさんの時間と苦労がかかっています。それらを考えたとき、販売価格は決して高くはないと思いました。

そのため、価格を変化させるのではなく、裂き織作品の持つ価値を広く知って貰うことが、購入して貰うために重要になってくると考えました。私が実際に見学して感じたように、裂き織の作品の持つ時間的・労働的価値を感じてもらうことで、購入に対する抵抗感を減らしていけると思います。

具体的には、以下の案が考えられました。

・SNS での情報発信（Twitter、インスタグラム、Facebook など）

・ワークショップの開催（アイーナ等で、段ボールキッドを使用して作品を作ってみる、あるいは WEB での開催）

・講演活動（裂き織の歴史や環境問題への効果、障害者の雇用などについて）

・手芸店での広報活動（段ボールキッドを置いてもらう、裂き織について書かれたチラシを配布してもらう等）

昨今の新型コロナウイルスの流行によって、ワークショップなどは実現できるか分かりませんが、その分ネットでの情報収集が盛んになっているため、SNS での広報活動に力を入れても良いと思います。私自身の卒業制作では、DM やポスター、あるいはパンフレットといった形で、裂き織と幸呼来 Japan さんの活動を PR していきたいです。（三上瑠奈）

このように「さんさ裂き織 PR プロジェクト」として、販売価格を抑える方法を模索するのではなく、もったいない精神によるリサイクルの活動、伝統技術の継承、障がい者の方々の労働の場としての社会的な意義を見出だし、広めていくことでさんさ裂き織のブランド力を高めていく方向に向かうことにした。

〇卒業研究としての成果（要約）

- 幸呼来 Japan の「裂き織」と卒業研究テーマについて：

「幸呼来 Japan の〈裂き織〉を PR するヴィジュアル作品の制作研究」（三上瑠奈）

裂き織や幸呼来 Japan についてより多くの人に知ってもらい、その伝統を存続させる一助となるため、この卒業研究題目を設定した。

株式会社幸呼来 Japan は、岩手県盛岡市安倍館に拠点を置く会社で、裂き織の技術を活かしてポーチや小物など様々な製品を作り、販売している。代表取締役である石頭悦さんが 2011 年に設立した会社であり、障がいのある方々も多く就業、活躍している。

製品を作る工程はほとんどが人の手によるものであり、機械では表現できない温かみのあ

る風合いが特徴である。
　その事業内容については、「幸呼来 Japan」や「Saccora Oneline Store」のホームページを参考になる。
　現在、主に 4 つのブランドラインが存在しており、それぞれの特徴は以下の通りである。

・SACCORA Standard
　さんさ踊りで使用した浴衣を生地にして商品を作っており、カラフルなチェックパターンが印象的なスタンダードライン。これまでの裂き織にはなかったような、鮮やかな配色と複雑なオリジナルパターンが魅力。

・SACCORA Denim
　工場で廃棄されていたデニム生地を裂き織に活用したライン。現代的な雰囲気が漂い、デニムの質感や経年変化も楽しめる。

・SACCORA ReBirth
　米袋など、廃棄される資材を活用し、新たな商品価値を生み出すことを目的としたライン。リユースする際のエネルギー使用もなく、廃材の魅力も引き出している。

・SACCORA Signature
　障がいのある織り手の個性とアート性を尊重した、唯一無二の裂き織が生まれるライン。デザインを決めずに自由に織ってもらうことで、世界に一つのプレミアムな商品が生まれている。

　その他、「SACCORA Project」という事業も行っている。外部の企業が持っている不要になった布を預かり、裂き織の技術で新しい生地に再生し、新たな価値を持つ生地として企業へと戻すことで、多くのアパレルメーカーとコラボしてきた。
　その代表的なものとしては、asics の人気ブランドである Onitsuka Tiger とのコラボが挙げられ、スニーカーの側面等に裂き織の多様なデザインが施されたスニーカーが発売された。また、古着文化を製品に取り入れている KUON とのコラボでは、端材を新たな生地に仕立てることで、コーチジャケットやキャップなどに製品化された。このような取り組みが評価され、2018 年にはグッドデザイン賞を受賞している。
　裂き織という伝統技術を商品にして販売するだけではなく、自宅で作品を制作できるようなキットや糸の販売も行っており、裂き織に興味を持った人が作品制作にチャレンジする後押しとなることが期待されている。
　また、メディア出演も行っている。YouTube にチャンネルも開設しており、自社での作業風景などを動画として配信している。その他、サステイナブルな取り組みを行っている企業など、様々な実践者との座談会配信も行われている。

　幸呼来 Japan YouTube チャンネル：
　https://www.youtube.com/channel/UCdqRF9-PuhSKArV46CFx6yA

－ 卒業制作の方法・内容について：

幸呼来 Japan の「DANBOLOOM」という制作キットを使用し、ウィービングタペストリーを制作した後に、その作品の写真を素材としてデザインした DM（ポストカード）も制作する。裂き織という技術を身近に感じてもらうためにも、織物については素人であった自分自身が実際に制作したウィービングタペストリーを DM に載せ PR したい。また、DM には幸呼来 Japan の関連サイトについても記載し、存在の周知、Web サイトへの誘導に繋げたい。

- ウィービングタペストリー作品について：

ウィービングタペストリーのテーマは「時間」である。タペストリーは壁に飾ることでそこに生活する人の日常に寄り添う作品となりえる。12 ヶ月分のタペストリーを制作し、毎月異なったデザインのタペストリーを飾ることで日常という時間を楽しむ、という提案である。そして、月々のタペストリーの造形課題として、それぞれの月の誕生石をモチーフとすることにした。誕生石には固有の意味があり、お守りとしての役割も担っているため、日常に寄り添うタペストリーの意味づけとして活用できると考えたからである。(図 15 の左上から上段は 4 月、5 月、6 月、7 月、8 月、9 月、下段左下から 10 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月のウィービングタペストリー)

図 15：ウィービングタペストリー（三上瑠奈）

- ウィービングタペストリー作品の各タイトルについて：

ウィービングタペストリー作品の構図や模様は、それぞれの月の誕生石が持つ意味からイメージが沸いたものを一つ選び、その意味から連想するイメージで表現した。また、作品名についても同様である。

誕生石とその象徴的な意味づけは以下の通りである。

・1 月「ガーネット」：貞操、真実、友愛、忠実
・2 月「アメシスト」：誠実、心の平和
・3 月「アクワマリン」「サンゴ」：沈着、勇敢、聡明

・4 月「ダイヤモンド」：清浄無垢
・5 月「エメラルド」「ジェイダイト（ヒスイ）」：幸運、幸福
・6 月「真珠」「ムーンストーン」：健康、長寿、富
・7 月「ルビー」：熱情、仁愛、威厳
・8 月「ペリドット」「サードオニックス」：夫婦の幸福、和合
・9 月「サファイア」：慈愛、誠実、徳望
・10 月「オパール」「トルマリン」：心中の歓喜、安楽、忍耐
・11 月「トパーズ」「シトリン」　友情、希望、潔白
・12 月「トルコ石」「タンザナイト」「ラピスラズリ」：成功

（参考）誕生石 ｜ 一般社団法人日本ジュエリー協会（jja.ne.jp）
https://jja.ne.jp/aboutjewellery/aboutjewellery_inner04.html

月によっては、誕生石が複数設定されている月もあるが、その場合は、他の月に設定される色彩とのバランスを考えながら、複数の誕生石のうち一つをその月のモチーフとして選んだ。(3 月「サンゴ」、5 月「エメラルド」、6 月「ムーンストーン」、8 月「ペリドット」、10 月「トルマリン」、11 月「シトリン」、12 月「ラピスラズリ」)

作品タイトル：
「Ⅳ 清浄無垢」「Ⅴ 幸福」「Ⅵ 富」「Ⅶ 熱情」「Ⅷ 和合」「Ⅸ 慈愛」
「Ⅹ 忍耐」「Ⅺ 希望」「Ⅻ 成功」「Ⅰ 真実」「Ⅱ 誠実」「Ⅲ 聡明」

また、ウィービングタペストリーそのものによって、様々な単位での「時間」を表現している。すべてのタペストリーには、装飾として円形のパーツをつけている。これを太陽に見立てており、12 ヶ月分のタペストリーをすべて横に並べたときに、パーツの位置の変化によって日の出から日没までの太陽の動きを表現するようにした。

完成したタペストリー作品を 12 ヶ月分すべて横に並べたとき、太陽に見立てたアクリル製パーツの位置の変化は図 16 のようになる。これで日の出から日没までの 1 日の太陽の動きを表現している。ここに並べたタペストリーは、左端が 4 月、右端が 3 月で、私たちの感覚的な一年（年度）の始まりから終わりまでを表現している。

図 16：ウィービングタペストリー（三上瑠奈）

裂き織の技術を活かした DANBOLOOM でウィービングタペストリーを自作することから、手織りの大変さを実感することができた。制作に時間がかかることに加え、使用する糸によっては編みにくいものもあり、意図した形にするためには様々な工夫が必要であった。

さらに、実際に体験することで、現代に至るまでの長い歴史のなかで人々が大切にしてき

たもったいない精神やものに対する愛着といったものを強く感じ、裂き織という技術の重要性に改めて気づくことになった。現代では、ものづくりの技術も発展、機械化し、少ない時間と労力でものを生産することができるようになった。一方で、ものを大切にするという姿勢はだんだんと見えづらくなっていると感じる。これからは、裂き織のように、資源を大切にするものづくり、そしてそのような姿勢が様々な場面でより強く求められてくるのではないか。ウィービングタペストリーを制作することで実感した、裂き織や幸呼来 Japan の魅力やその重要性を、これからも忘れずに循環型社会のためにも広めていきたい。

- DM 作品の制作について：

今回の DM 作品（図 17、図 18、図 19）の制作の目的は、裂き織という技術の持つ、手織りの温かさや雰囲気を感じてもらうことと、幸呼来 Japan の存在やその活動を PR することにある。そのため、自作したウィービングタペストリーの画像を使用しつつ、以下のものを記載する。

・幸呼来 Japan のオンラインストアの QR コード、URL

これを記載することで誘導し、アクセスした人は、幸呼来 Japan がどういった会社なのかを知ることができ、商品を購入することもできる。

・DANBOLOOM（幸呼来 Japan が販売している裂き織の制作キット）のサイトの QR コード、URL

これを記載することで、自分で裂き織の作品に挑戦する人の増加に貢献できる。

・幸呼来 Japan が、障がいのある方々の雇用の場となっていること

幸呼来 Japan は、裂き織という伝統技術を絶やさないために商品販売等を行っているが、その他にも、障がいのある方々の雇用の場になっているという点でも社会に貢献しており、そのことについても PR する。

図 17：DM 宛名書き面（三上瑠奈）

図 18：DM 制作１（三上瑠奈）

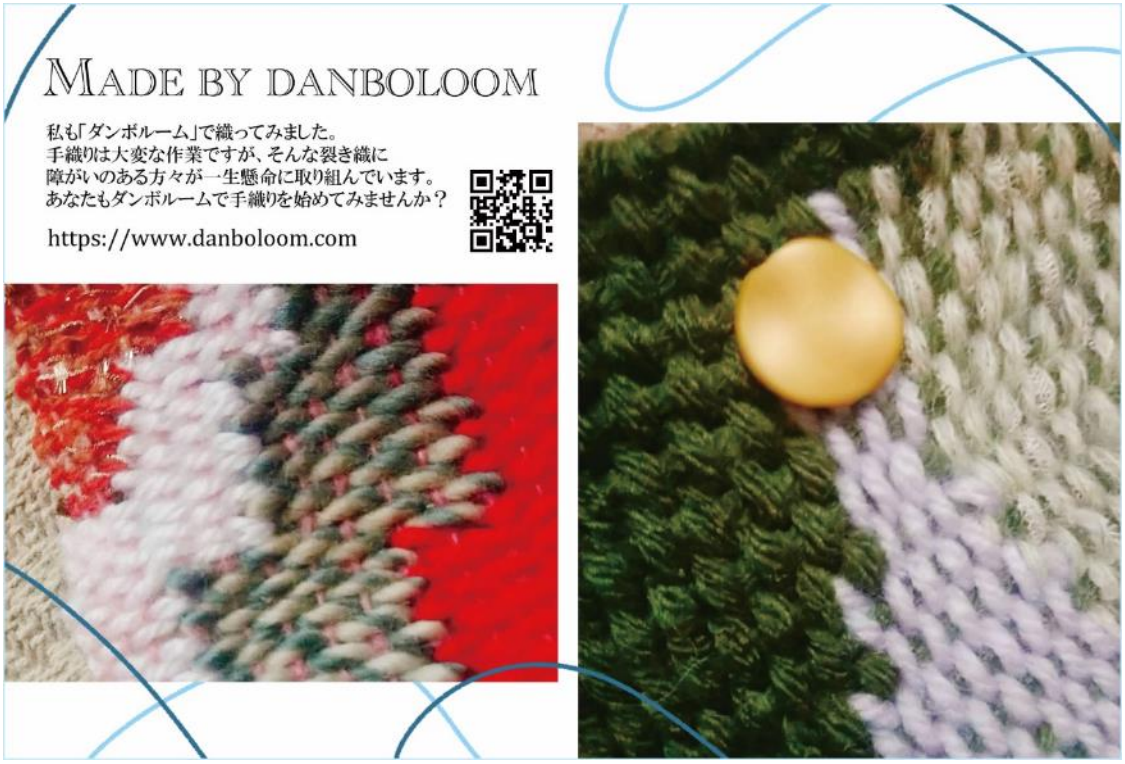


図 19：DM 制作２（三上瑠奈）

図 18、図 19 のように、DM デザインについては、ウィービングタペストリーの写真を大きく配置することで、手織りの温かさや雰囲気が伝わるものとした。また、糸をイメージした曲線を描き入れ、より柔らかいイメージが伝わるようにデザインした。２種類それぞれ異なる雰囲気にすることで、それぞれが裂き織の温かい雰囲気を持ちながらも、糸の色や編み方によって多様な表現が可能であることを伝えたかった。

DM の表面には DANBOLOOM のサイトについて、そして、幸呼来 Japan が障がいのある方々の活躍する雇用の場となっていることについて記載し、裏面には幸呼来 Japan のオンラインストアについて記載した。DM を手に取った人が裂き織や幸呼来 Japan に興味を持ったときに、すぐに情報にアクセスできるよう、サイトの URL だけではなく QR コードも記載した。

DM を制作する中で、自分のアイディアや表現したいことを効果的にデザインすることの難しさを感じた。客観的にデザインを見たときに、情報が正確に、そしてわかりやすく伝わっているか、より適切な表現方法はないか、など、持っておくべき視点が多くあることを実感した。

現代は情報化社会となっており、媒体はなんであれ、情報を伝える手段やその表現はより多様に、そして重要になっていくと考えられる。これからも、デザインすることの楽しさは忘れず、より効果的なデザインが制作できるよう学んでいきたい。

ウィービングタペストリーと DM のどちらの制作でも、自分の表現したいものを形のあるものに落とし込むという行為が必要であったが、それが難しかった。タペストリー制作では、誕生石の色や意味から沸いたイメージを、具体的に糸を編むことで表現した。DM 作品制作では、伝えたいものや情報を、レイアウトやデザインに落とし込んで表現した。これらの制作を通して、裂き織や幸呼来 Japan の存在を知り、興味を持つ人が少しでも増えて欲しい。今回の制作で学んだことをこれからの人生に活かし、そして裂き織や幸呼来 Japan について今後も引き続き関わっていきたい。

- さんさ裂き織をプリントした商品化の提案：

さんさ裂き織は、障がい者の方々の丹念な仕事によって生み出されるものであり、その対価を支払い、生活を守るためにも、商品を安く売ってしまうようなことは簡単にはできない。さんさ裂き織の社会的な価値を理解してもらうことでブランド力を高めていく必要がある。裂き織自体は安くはできないが、印刷物にした「裂き織プリント」の商品企画であれば様々に可能であるように思われた。ここではその事例（試作）として、月舘花菜が構想に加わり、指導教員の助言のもと、三上瑠奈の卒業制作であるウィービングタペストリー作品の部分的な写真を素材にしたマスキングテープを提案することにした。（図 20、図 21）

図 20：裂き織プリントのマスキングテープの事例（三上瑠奈、月舘花菜）

図 21：裂き織プリントのマスキングテープの事例（三上瑠奈、月舘花菜）

今回は女性を中心に人気の高いマスキングテープを試作してみたが、このようなさんさ裂き織の写真を印刷した裂き織プリントの商品化については、今後、リサイクルを意識した様々な商品企画を検討できるのではないかと考えている。

「幸呼来 Japan の〈裂き織〉を PR するヴィジュアル作品の制作研究」（三上瑠奈）
「岩手大学卒業制作展 2021」における展示：岩手県民会館にて、2021 年 3 月 5 － 9 日

○最後に（本研究課題に関わった学生の提案や感想）

裂き織を体験してみて、その楽しさや奥深さに気づくことができた。編み物自体、高齢者の方を中心に多くの人が触れているため、裂き織も認知度が上がれば触れる人が増えるのではないかと考えた。自分自身裂き織を楽しいと感じたように、同世代にも裂き織の良さを知ってもらえるのではないだろうか。自分の年代ならではの視点から裂き織が普及するにはどうすれば良いかの提案をしたい。

まず、裂き織を知ってもらうことが第一だ。制作体験をしてもらうにしても商品を購入してもらうにしても知っていなければ何もできない。今の時代、何かを知ってもらう上で一番手軽なものは SNS だ。その中でも、同年代で一番利用率の高い Instagram が適していると考える。また、裂き織はデザイン性が高いものが多いので写真映えしやすいのでより Instagram が適している。

同世代に裂き織を普及しようとしたとき、メインターゲットは丁寧な暮らしを意識する層になると考える。現在、同年代の特に女性を中心に Instagram や YouTube で自分の部屋紹介やルーティーン紹介など生活の公開が流行っている。ものを大切にすることやデザイン性のあるものを身につけたり部屋に置いたりすることは、そういったコンテンツに触れている人にとっては注目する部分の一つのはずだ。

Instagram で「＃裂き織り」タグを調べたところ、約 1.6 万件の投稿があった。その中でも人気の投稿の多くは裂き織のアイテムやデザインが前面に出ている。Instagram にて裂き織を知りたい人にとっては良い取り上げ方だが、別のコンテンツに触れていく中でそこに裂き

織があればより多くの人に知ってもらえる。つまり、部屋のインテリア紹介などの中に裂き織のアイテムを盛り込めば良いのではないだろうか。

いくつかのタグについて調べてみたところ「＃一人暮らし」の投稿は約 158 万件、「＃インテリア」の投稿は約 852 万件、「＃ていねいな暮らし」の投稿は約 58.7 万件と裂き織りタグと比べて桁違いだ。こういったタグと共に、他の家具と裂き織が同時に写った写真を投稿することで、より裂き織が普及すると考える。また、幸呼来 Japan のグッズをそういった写真に収め、サイトのリンクを貼れば購入のハードルも下がる。

裂き織を生活の一部として公開することで、その良さに共感した人へ裂き織を普及できるのではないだろうか。（月舘花菜）

—

私は、幸呼来 Japan さんを見学してみて、インターネットで商品を見るよりもカラーバリエーションが豊富で、多くのアパレルブランドとコラボ商品を作っていたりしていた。従来の南部裂き織と制作コンセプトの異なり、様々な年代をターゲットにした商品があり若者も好感を持ちやすい。私は、この素晴らしいさんさ裂き織はこれまで目にする機会がなく、今回初めてインターネットを通して知った。そのため、私のようにまだ見たことがない人がいるかもしれないため、一般の方が目にする機会を増やすことが大切だと考えた。さんさ裂き織の体験やフェスのような多くの人が目にするところに出品することで認知度も高まると考える。

今回見学してみて、私は価格設定も商品の種類も妥当であると感じた。デザインもとてもかわいいらしく、コラボ商品では靴まである。また、すべて手作業で制作し、一点物のため、特別感が味わえてとても素晴らしい商品であると感じた。そのため、冒頭でも述べた通り、お客様が商品を目にする機会を作ったほうが良いと思った。

織りが簡単に体験できる DANBOLOOM は小学校の夏休みや冬休みの工作に親子で一緒に楽しみながら楽しめるほか、趣味の一環として楽しめるとても素敵な商品である。これがきっかけでさんさ裂き織に興味を持つお客様ももっと増えてくると考えた。（千田愛梨）

幸呼来 Japan 関連 Web サイト：

YouTube：

https://www.youtube.com/channel/UCdqRF9-PuhSKArV46CFx6yA

Instagram：

https://www.instagram.com/saccora_japan/

Facebook：

https://m.facebook.com/saccorajapan/

［謝辞］

本研究プロジェクトに関してたいへんお世話になった幸呼来 Japan の石頭悦さんに心より感謝いたします。それから、「SENDAI Social Innovation Summit 2021」にて大賞、オルビススマートエイジング賞、LIKE（共感）賞のトリプル受賞！おめでとうございました！